



メールマガジン「ユニバーサルひょうご通信」第 138 号  
発行:兵庫県ユニバーサル推進課 令和 4 年2月16日



【今月のピックアップ!】

- ① 視覚障害者への配慮や支援のポイント

【手話カフェ】

- ② ~自分の命を守れるように~

【募集・イベント】

- ③ ちびっこ盲ろう者体験教室(3/20)
- ④ 要約筆記者養成講座(加古川、宍粟地域)の受講生募集

【お知らせ】

- ⑤ 兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展(2/18~20)
- ⑥ 「兵庫県障害者アートギャラリー」2月の催し

【ラジオ】

- ⑦ 「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」1 月放送内容



- 
- ① 視覚障害者への配慮や支援のポイント
- 

今月は、視覚障害者への配慮や支援のポイントを紹介します。  
県視覚障害者福祉協会の太田事務局長にお話を伺いました。

戸惑っている視覚障害のある方を見かけたときは、まず、声をかけて、援助を求められたらどのようにすればよいか確認して下さい。

例えば、「学生の太田です。お手伝いしましょうか？」と、自分の立場や氏名を名乗り、そばにいて前から声をかけて下さい。

移動の介助をするときには、介助する側の腕などを持ってもらい、障害者の半歩前を歩いて下さい。また、障害物などの路面の変化についても具体的に知らせてください。

点字ブロックは、移動の際に大事な情報です。周辺に障害物をおいたり、立ち止まったりしないでください。

本や資料などは、そのまま読むことができない場合もありますので、視覚障害者が読めるよう提供する必要があります。具体的には、点訳、拡大、電子データの提供、印刷物のテキストデータ化、対面朗読が考えられます。

最近では、タブレット端末を活用し情報を得ている障害者も増えていきますので、その方にあった支援を行う必要があります。

弱視には、照明環境の整備が特に重要です。多くの場合、明るい照明を必要とするため、机上に個別照明器具を設置することが必要な場合があります。一方、明るい場所では、目を開けていられないほどまぶしさを強く感じ、室内でもサングラスが必要な場合もあります。

申請書類の記載や押印など、本人が記載できないこともありますので、代筆の手伝いをお願いします。

慣れない場所については、丁寧なオリエンテーションが必要です。いったん地理的環境を理解すれば、一人で目的地まで移動することも可能となりえます。

以上、視覚障害者への配慮や支援のポイントでした。戸惑っている視覚障害者を見かけたら、ちょっと勇気をだして、声をかけてください。あなたの一言で、思いやりの輪は広がっていきます。

---

## ②【手話カフェ】 ～自分の命を守れるように～

---

27年前、1995年1月17日は兵庫県にとって忘れられない阪神・淡路大震災が起こった日です。

大規模災害の場合、耳が聞こえる人であっても停電によってほとんどの通信が途絶え、判断に困る状況が起こります。耳が聞こえないと周りの人の声やサイレン、放送なども聞こえないため、一層状況の把握が難しくなります。

阪神・淡路大震災の時は早朝でまだ外が暗く、様子を見て知ることはできませんでした。また、停電のためテレビの映像やFAXの文字などで知ることもできませんでした。そのころは携帯電話も普及していませんでしたので、通知を受け取ることもなかったのです。そのため、「まずどうすればいいのか」を判断できるようになるまで長時間かかりました。

11年前、2011年3月11日の東日本大震災では、通信機器や通信アプリなどが普及してきていましたが、発災直後の津波警報はほとんどが防災無線などの音声であり、近隣の人や親せきが来てくれたから避難できた人、内陸にいたので津波があったことを知らなかった人など情報から取り残された状況がありました。

その後、徐々に情報が届きにくい人への制度は整備され、消防庁からのJアラート、ひょうご防災ネットなど個人への確実な情報伝達がなされるようになってきました。けれども、今度は受信する機器を持っているか、受信した情報を適切に利用することができるかなど、利用者のリテラシーに依存する条件が大きくなってきています。

聴覚障害者でも若い方々はむしろ通信機器を積極的に使いこなし、友人との連絡や学校の授業、各種の情報取得に活用している人が多いです。しかし、機器を使い慣れていない方にとっては端末から情報を得ることは簡単ではありません。耳が聞こえる人でもスマートフォ

ンでのコロナウィルス感染症のワクチン接種予約ができなくて困る人がたくさん出たことは皆さんご存じだと思います。

聴覚障害であり、日本語の獲得に困難があった方々にとっては、情報取得は二重の困難になっています。制度やアプリについてはそれを使いこなすことができるように、制度の説明、アプリの設定、登録方法、必要な情報の見方など、実際に使えるようになるための機会をもっと数多く、県内の多数の地域で提供いただけたらと思います。  
(兵庫県設置手話通訳者)

---

### ③ ちびっこ盲ろう者体験教室の開催

---

盲ろう者と、小学生までの子どもさんとの交流会を開催します。  
盲ろう者は、耳も聞こえなくて、目も見えません。  
どうやって、お話しするのでしょうか？  
実際に交流することで、盲ろう者のことをもっと知って下さい。  
参加の申し込みは不要です。時間内に自由にお越し下さい。

#### ■内容

- ◇日時 令和4年3月20日(日)13:00～15:30(受付12:45)
- ◇場所 ひょうご盲ろう者支援センター  
(神戸市兵庫区水木通2-1-9 中山記念会館301)
- ◇対象 小学生まで
- ◇入場 無料

#### ■お問い合わせ

特定非営利活動法人兵庫県盲ろう者友の会  
神戸市兵庫区水木通2-1-9 中山記念会館301  
TEL 078-579-7600, FAX078-579-7603

---

### ④ 要約筆記者養成講座(加古川、宍粟地域)の受講生募集

---

聴覚に障害のある方(主に中途失聴者・難聴者)へのコミュニケーション支援を担う要約筆記者の養成講座を開講します。

話の内容を要約して文字にし、その場で伝える要約筆記の技術や、福祉の基礎知識などを学ぶ講座です。

要約筆記に興味のある方は、ぜひご参加ください。

■内容 令和4年度 要約筆記者養成講座(全 90 時間)

◇加古川会場 5月12日～12月22日(全30回)

◇宍粟会場 5月15日～12月18日(全22日)

■詳細はこちら(兵庫県立聴覚障害者情報センターHP)

<https://hyogocenter.jp/gyouji/yousei/>

■申込締切 いずれも 4月20日

■申込先・問合せ先

兵庫県立聴覚障害者情報センター 要約筆記者養成講座担当

電話:078-805-4175 FAX:078-805-4192

Eメール:[youyakuhaben@hyogo-chokaku.jp](mailto:youyakuhaben@hyogo-chokaku.jp)

---

⑤「兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展」の開催

---

兵庫県立美術館で、第17回兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展を開催します。絵画、書道、写真、工芸など、魅力あふれる作品の数々を、ぜひご観賞ください。

■内容

◇日時 令和4年2月18日(金)～20日(日) (10時～17時半)

※最終日は14時まで

◇場所 兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階 ギャラリー

(神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1)

◇入場 無料

## ■お問合せ

ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

(兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課内)

TEL 078-362-4090 FAX 078-362-9040

Mail [universal@pref.hyogo.lg.jp](mailto:universal@pref.hyogo.lg.jp)

---

## ⑥ 「兵庫県障害者アートギャラリー」2月の催し

---

神戸市灘区の県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」内にある「兵庫県障害者アートギャラリー」では、3月31日(木)まで「丹南精明園作品展」を開催しています。

絵画や書道、貼り絵やスクラッチアートのほか、オランダに古くから伝わるトールペイントの技法を用いたアッセンデルフトや、色付けした綿棒を挿して描く綿棒アート、絵本やクリスマスツリーなど、多くの作品が彩りを添えています。

障害のある方々が、様々な表現手段を使い、自由な発想で描いたアート作品をどうぞご鑑賞ください。

## ■「丹南精明園 作品展」

1月6日(木)～3月31日(木)

10時～18時まで ※最終日は午後12時閉場

<https://hyogo-arts.or.jp/harada/exhibition/#2438>

---

## ⑦ ラジオ「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」

1月放送内容

---

## ■1月18日の放送内容

<ゲスト> 兵庫県企画県民部男女家庭課 職員 北野里奈さん

<テーマ> 「男女共同参画社会における男性の家事・育児について」

共働き世帯が増えています。家事・育児の分担は、理想は男女が半分ずつですが、まだまだ女性の負担が多いのが現状です。

そこで、県は「ひょうご男女いきいきプラン 2025」を昨年3月に策定し、男性に関する重点目標を新設。長時間労働を前提とした働き方を見直し、男性の家事・育児等の家庭生活や地域活動への参画を促進しています。

番組後半は、障害をお持ちの方が作った商品をご紹介します。

◇商品 なつとこちゃん

◇製造 生活介護事業所 納豆工房なつとこちゃん(高砂市曾根町)  
機械ではできない一粒ひとつぶの綺麗な豆の選別や、ご飯を炊くように火加減を見ながら炊き上げることで生まれる食感と風味は、手作りならではの。ぜひご賞味ください。(ヤマダストアー全店で販売)

■詳しい放送内容は、ラジオ関西「ラジトピ」に後日掲載しますのでご覧ください。記事と録音でお楽しみいただけます。

■次回のラジオ「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」

3月15日(火)15時20分～15時40分

(ラジオ関西「PUSH!」内)

---

【編集・発行】

イベント情報や、メルマガの配信希望・中止等のご連絡は以下まで  
兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

TEL:078(362)4379 FAX:078(362)9040

Mail:universal@pref.hyogo.lg.jp

---